



1. “母屋”と“蔵”を繋ぐ後庭
2. 緑のライトウェルを辿り客室へ
3. 文化芸術の歴史を継承し未来に繋ぐ



日建連表彰2022



第63回BCS賞

THE HIRAMATSU 京都

選定理由 【選考委員】
中島 肇・安田俊也・松村正人

明治三十二年築の京町家を、現代的なプログラムであるスモールラグジュアリーホテルへ保存・再構築したプロジェクトである。ここでは「保存・再生された表家の部分」+「新たに形態復元をした新築部分」+「歴史的景観を尊重した控えめな意匠とした新築部分」が融合され、京町家の歴史的佇まい・空間性が、その背景にある精神性・作法を含み、発展的に継承されている。

敷地が面する室町通りはかつて京都の中心であり、現在においても京町家が点在しているが、経済的な理由から解体される事例が多いと聞く。その流れを変える、新たな保存手法の発見と実践が社会から要請されていた。

本プロジェクトにおいても一度は解体が検討されたが、景観保全や文化の継承の観点から計画を見直し、部分保存+高級ホテルとして敷地の高度利用が図られた。その結果、京町家の保存は表家のみに限定されることになったが、生かし取り材の活用などかつての街並みに戻すべく丹念に修景された表庭塀や、表面に凹凸をつけたいぶし銀のアルミキャストルーバーの素材感などにより、室町通り側のファサードには歴史と連続する佇まいが新しく再生されている。歴史的なファサードの再現は難しく、場合によっては表層的になりがちであるが、ここでは単なる既存建物の再現・復元ではない本物の息遣いに向けた徹底的な取組みがなされ、古いものと新しいものが調和・融合する新たな本物が実現されている。

さらに、庭屋一如の精神・作法による伝統的空間が現代的な解釈とともに再構築された内部空間構成、木架構の生かし取りと伝統的技法

の融合、木造京町家の細い木柄を損なわない耐震補強など、二、九五〇ミリという極めて低く抑えられた階高の中に意匠・構造・設備が高度に融合され、京町家の本質的価値が現代的な解釈とともに継承されている。

ここで実現された保存再生は、歴史的建造物をそのまま残すのではなく、歴史の中で培われてきた独特の美意識・空間性の継承や伝統技術の活用などを通し、歴史と今を高度に繋ぎ合わせる試みである。細部にわたるまで丁寧につくりこまれた企画・設計・施工により、京町家に

内包されている遺伝子が受け継がれ、歴史を発展的に次の時代に繋ぐDNA継承型の保存再生が実現されている。

また、文化財ではないが文化的意義が高い建築物の保存を進めるためには、新築建物を前提とした既存法規の適用という大きな壁が存在する。本プロジェクトにおいては、それら乗り越え、保存再生と経済性を共存させ、困難な状況にある京町家の継承に新たな可能性を切り拓いた、その手法・作品が高く評価された。

THE HIRAMATSU 京都 概要

- 所在地 京都府京都市中京区室町通三条上る 役行者町361
- 建築主 NTT都市開発㈱
- 設計者 ㈱日建設計、㈱大林組、中村外二工務店
- 施工者 ㈱大林組
- 竣工日 2020年1月15日

- 敷地面積 1,185㎡
- 建築面積 945㎡
- 延床面積 3,999㎡

- 階数 地上5階
- 構造 鉄筋コンクリート造、一部木造



詳細や他の写真などは
左記の二次元コードからWebページに
アクセスしてください。

《日建連表彰2022 第63回BCS賞受賞作品》 熊本城特別見学通路／熊本都市計画桜町地区第一種市街地再開発事業／GREEN SPRINGS／国立競技場／THE HIRAMATSU 京都／三栄建設 鉄構事業本部新事務所／ダイヤゲート池袋／谷口吉郎・吉生記念金沢建築館／東京大学総合図書館／東京都公文書館／長野県立美術館／延岡駅周辺整備プロジェクト／Hareza 池袋／横浜市庁舎／早稲田大学37号館 早稲田アリーナ

BCS賞

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2022年で63回を数えました。